



特集

「聞こえない」を「聞こえる」に！

リスニングの トリセツ

TOEIC900点を取得したのに、英会話のクラスでは先生と普通に会話できるのに……

旅行先で聞こえてくるネイティブ同士の英語がまったく聞き取れない！

映画も字幕なしではいつまでも聞き取れない！そんな悩みの原因をひとつずつ解決していきましょう。

リスニング力を上げたいからと、速い英語をやみくもに聞き流してしまっている方、いませんか？

聞き流すだけで耳が変わって速い英語が聞き取れるようになる、ということはありません。

「高速英語」を理解できるようになる早道は、まず聞き取れない原因をつかむことです。

執筆：EE編集部

イラスト：eamesBot/Shutterstock.com (p.27, p.28)、Helen Stebakov/Shutterstock.com (p.29)、eamesBot/Shutterstock.com (p.30)、shmai/Shutterstock.com (p.31)、eamesBot/Shutterstock.com (pp.32-33 上)、HappyPictures/Shutterstock.com (p.32)、eamesBot/Shutterstock.com (pp.33 右 上)、Lia Li/Shutterstock.com (p.33 下)、eamesBot/Shutterstock.com (p.34上・下)、Alphavector/Shutterstock.com (p.35)、Natykach Natalia/Shutterstock.com (p.36)、eamesBot/Shutterstock.com (p.37)

PART 1



「区別しにくい音」に注意しよう!



英語の音の中には、特に日本人にとって「区別しにくいもの」が数多くあります。日本語の感覚で「カタカナ表記」にしてしまうと、「同じ音」になってしまうものもあります。また、英語の語彙の中には、そのまま「カタカナ」として日本語の中に取り込まれているものも少なくありませんが、その表記が、実際の英語の発音と大きくかけ離れてしまっている場合は、英語リスニングの大きな障害になってしまいます。

区別しにくい母音

1. 「ア」に聞こえる母音

英語の母音には、日本語のカタカナ表記を当てはめると「ア」になるものがいくつかあります。

🔊 聞き取りにチャレンジ



どの順番で読まれたか答えてみましょう。

A. He wondered about the world.

(彼は世界について考えた)

B. He wandered about the world.

(彼は世界を放浪した)

wonder [wʌndər] 「あれこれ考える、驚嘆する」と wander [wʌndər] 「歩き回る、さまよう」は、どちらも「ワンダー」と表記しますが、実際の両者の発音はまったく異なります。[ʌ] は、日本語の「ア」よりも口を開けないで発音します。これに対して、[ɑ] は大きく口を開けて発音する「ア」です。

「ア」のように聞こえる母音として、もう一つ [æ] があります。cat / hat / map などの母音で、喉を絞るようなイメージで出す「エア」のような音です。

2. 「アー」に聞こえる母音

「アー」に聞こえる母音もなかなかの難敵です。基本的には2つしかありませんが、これら2つを区別できていない人が意外と多いようです。

🔊 聞き取りにチャレンジ



どの順番で読まれたか答えてみましょう。

A. I hear her. (私は彼女を愛している)

B. I hurt her. (私は彼女を傷つけた)

Aのheart [hɑ:rt] は「～が大好きだ」という意味の動詞で、口語で使われる用法です。Bのhurtは [hɜ:t] と発音されます。

[ɑ:r] は、1で紹介した [ɑ] の後に、舌先を反り返らせることで、[r] の響きを出す音です(アメリカ英語では、「反り舌」ではなく、舌の後ろの方を盛り上げる「盛り舌」(bunched-r)を用いる人もいます)。口を大きく開けるので、「明るい」「濁りのない」感じの音です。

これに対して、[ɜ:r] は「こもった」感じの音です。[ɜ] は「あいまい母音」といわれるもので、舌や唇をリラックスさせた状態で出す「弱いア」のような音です。口をあまり開かずに [ɜ] を発音し、そのまま伸ばして、舌先を反り上げ(あるいは、舌の後ろの方